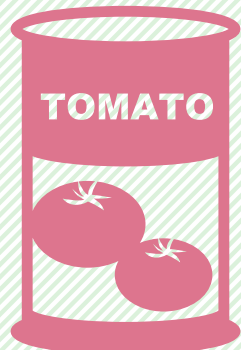




フードドライブ 実施マニュアル



FOOD DRIVE IMPLEMENTATION MANUAL



1 はじめに

このマニュアルは、家庭における食品ロス削減を推進するため、家庭でやむを得ず余った手付かず食品の有効な活用方法となる「フードドライブ」について、実施する際の手順や注意点などをまとめたものです。

今後、様々な団体において、本マニュアルを活用し、県内で幅広くフードドライブが実施されることにより、県民の皆様が気軽に食品ロス削減に貢献ができる環境が構築されることを期待しています。

1 食品ロスの現状

「食品ロス」とは、本来食べられるのにもかかわらず廃棄されてしまう食品のことであり、国内においては、年間522万トンもの食品ロスが発生していると推計されています。そのうち、事業系食品ロス量は275万トン、家庭系食品ロス量は247万トンとなっています。

家庭系食品ロスの内訳は、「食べ残し」が4割、やむを得ず余る「手付かず食品」が4割、野菜の皮などの「過剰除去」が2割となっています。フードドライブは、この「手付かず食品」を削減するために有効な方法であり、また、食品ロスの削減だけでなく、食べ物を必要としている方達への支援にもつながります。



2 フードドライブとは

フードドライブとは、家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている福祉団体や子ども食堂等に寄付する活動のことです。

家庭内で余った食品



家庭

フードドライブ



回収拠点

＼ありがとう！／



支援を必要としている方々

2 実施計画を作成しよう！

まず、フードドライブを実施する際には、食品の集め方や提供先、受け付けできる食品・受け付けできない食品、実施時期、実施場所などについて計画を立てましょう。

1 食品の集め方

食品の集め方には、大きく分けて以下の2通りあります。

1

スポット、イベント的に集める

実施期間例：2～3日間

- 自治体が主催するイベントなどで
- 人が多く集まる行事で
(学校の文化祭や企業の
地域交流イベントなど)



2

定期的集める

実施期間例：月に1回など

- コンビニやスーパーなどのカウンターで
- 会社の営業窓口で
(お客様向けと社員向けの2通りなど)
- 自治体の窓口などで



2 回収品の運搬主体

大別して、以下の2通りがあります。

1

フードドライブ実施主体
自らが回収品をフードバンク
団体等に運搬

2

フードバンク団体等が
回収品を運搬

3 食品の提供先

食品を必要としている団体等には、フードバンク団体などがあります。提供先については、資源循環推進課にお問い合わせください。

提供先には、集まった食品を提供したい旨の申し出と引き渡し方法やどういった食品を必要としているか、受け入れできない食品がないか、などの事前調整が必要となります。

4 受付できる食品

食品衛生上の問題が生じないように、例として以下の条件を設定し、全てを満たす食品のみを受付けます。

1

常温で保存できるもの

2

未開封で包装が
破損していないもの

3

賞味期限まで
1か月以上あるもの

※提供先団体と調整して変更する必要がある場合もあります。

4

商品説明が日本語で
表記されているもの

食品の提供先となる団体によって、必要としている食品の種類が異なることがあります。提供予定の団体の要望を事前に確認しておくといよいでしょう。

受付できる食品の一例

- お菓子・お米(※) ●飲料 ●乾麺、乾物
- 調味料 ●インスタント食品、レトルト食品
- 缶詰、防災備蓄食品



※お米については、賞味期限などの記載がなく、また、収穫年が分かりにくい場合もあり、受け入れには注意が必要となります。提供先団体と調整して、例えば「古米は1年前の玄米、精米まで」、「販売者、産地が表示された未開封のもの」などといった条件を定めて受け入れる方法もあります。

受付できない食品の一例

- 生鮮食品(生肉、魚介類、生野菜など)
- アルコール類(みりん、料理酒を除く)
- 冷蔵食品、冷凍食品などの温度管理が必要なもの
- 賞味期限の記載がないもの(お米、砂糖、塩を除く)
- 開封済みのもの、賞味期限が1か月を切っているもの



※期間は提供先と調整して変更できます。回収から提供まで日数を要する場合は、2ヵ月にする場合もあります。

5 実施場所

以下のスペースを確保できる場所を選定します。

受付場所

スーパーやショッピングセンターなどの大きな施設で実施する場合は、建物入口近くなど、人が集まりやすい場所や人の流れの近くに受付場所を設けると、人の目につきやすくなります。そのような場所での実施が難しい場合は、のぼり旗や案内表示を設置するとよいです。



回収した食品を保管する場所

受付場所のそばに設置して、回収作業をスムーズにできるようにします。また、食品衛生上の観点から、直射日光が当たる場所や高温多湿の場所を避けます。スタッフがいない別の部屋などに保管する場合は、施錠できる部屋とするなどの対策も必要です。



その他

- スーパーやコンビニ、ショッピングセンター等の商業施設で実施する場合は、寄付された食品と購入した商品が混在しないよう動線の工夫が必要です。
- 会社など、窓口があるところでは、そこを受付場所とすることで、スタッフの数やスペースを少なくすることができます。



提供：アルビス(株)



提供：(株)ファミリーマート

3 事前準備をしよう！

フードドライブを成功させるためには、事前準備が大切です。事前の広報や機材の準備を万全にしておきましょう。

1 広報

フードドライブで、食品を集めるためには、事前の広報が重要となります。実施の日時・場所、集める食品の条件などが決まったら、以下のような方法で周知します。

チラシ

窓口やイベント、回覧板などでの配布

ポスター

窓口、スーパーやコンビニ等の店舗などでの掲示

ホームページ

SNS

広報誌

テレビ、ラジオ、新聞

条件が合わず持ち帰りになってしまうことを未然に防ぐためにも、周知の際に、集める食品の条件をしっかりと伝えるようにします。集める食品の例を示すことも有効です。

2 機材の準備

一般的に準備すべき資機材として、次のものがあります。

のぼり旗

食品を入れる箱

パネル (食品ロス、フードドライブ)

長机・椅子

電卓・筆記用具

はかり

食品受入リスト (記録用のパソコン)



ノートパソコンで
データ入力すれば
効率的です！

のものは県で貸し出ししています。詳しくは資源循環推進課までお問い合わせください。

食品受入リストの一例

会場:	年 月 日									
来訪者 No.	① お米	② 乾麺	③ 缶詰	④ レトルト・ インスタント食品	⑤ お菓子	⑥ 飲料	⑦ 調味料	⑧ 粉末	⑨ 乾物・その他	
1	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g
2	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g
3	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g
4	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g
5	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g
計	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g	個 g
総計										個 g

4 フードドライブ実施当日！

いよいよフードドライブ実施当日です。メンバー内で役割分担や受付手順、分類方法について確認しておきましょう。

1 役割分担

以下のような役割分担を決めておくと、作業をスムーズに行えます。受付方法やイベントの規模などによりますが、概ね3～4名程度のスタッフが必要となります。

係	作業内容
① 受付係(1～2名)	●受付票の記入のお願い ●食品の受け取り、期限や保存方法、開封の有無などの確認
② 記録係(1名)	●食品の種類、数量・重量などの記録
③ 分類係(1名)	●食品の分類分け、整理
④ その他 (①～③と兼ねることもできます。)	●食品寄付者の案内 ●マスコミ対応 ●提供先団体等との調整 など

2 受付手順

受け付けをする際の大まかな流れは以下のとおりです。スムーズに行えるように、事前に受け付ける食品の条件や分類方法について、スタッフに説明しておくといいです。

- 1 寄付者に受付票を記入してもらってから、食品を受け取ります。
- 2 受付係が、集める食品の条件を満たしているか、食品を1つずつチェックする。
(条件を満たさない食品があれば、寄付者に返却します。)
- 3 全ての食品のチェックが終われば、受け付けは終了。
提供者に手続きの終了を告げ、記録係に食品を渡す。
- 4 記録係は、食品の種類、数量・重量などを食品受入リストに記録する。
 - 手書きによる記録も可能ですが、ノートパソコンでデータ入力すれば、集計作業やリストの作成が効率的に行えます。
 - 重量の記録は、基本的にはパッケージに記載された重量を記録しますが、記載がない場合は、はかりなどで計量します。
※個別に計量せず、実施後に箱単位で計量する方法もあります。
- 5 分類係に食品を渡し、分類係は分類ごとに分けた箱に入れる。

3 分類方法

寄付された食品を効率的に活用するため、提供先と食品の分類方法を事前に決めておくといいです。以下は一例です。

分類	備考
お米	事前に詳細な受入条件を決めておく必要があります。 ※3ページの「受け付けできる食品の一例」に記載されている注釈をご参照ください。
乾麺	乾燥させた麺類
缶詰	開けて、そのまま食べられる食品
レトルト食品	常温のまま、または温めて、すぐに食べられる食品
インスタント食品	お湯または水等を使って食べる食品
お菓子	そのまま食べられるお菓子類
飲料	そのまま飲むか、お湯または水を入れて飲む食品 ※粉末飲料も含む。
調味料	食べものに味をつける食品
粉物	穀物等を砕き微細な粉状に加工した食品
乾物・その他	乾燥させた食品や上記の分類に当てはまらない食品

※上記はあくまで例であり、提供先団体と調整して、より簡単な分類とすることもできます。

※これらの分類とは別に、賞味期限まで短い食品(残り1~2か月程度)を分けておき、提供先団体に分かるようにしておくと、提供した後に期限切れとなってしまうことを防ぐことができます。

会場レイアウトの一例

食品の受け取りから、分類分けまで、スムーズに行うためにも、事前に会場レイアウトを決めておきましょう。



5 引き渡し！

集まった食品をスムーズに引き渡すために、事前に提供先と調整を行っておきましょう。

1 提供先との調整

集まった食品を整理し、提供する食品の種類、数量・重量などをリスト化しておきます。このリストを食品と併せて提供先団体に渡せば、提供先団体がスムーズに分配したり、計画的に消費できるようになります。次に、提供先団体におおよそのボリューム感を伝え、引き渡しの日時、場所、運搬方法を調整します。なお、フードドライブの実施期間が長い場合は、開催中に賞味期限が近づく食品が出てきて、途中で提供先団体に回収した食品を運搬しなければならないことがありますので、引き渡しの頻度も事前に相談しておくといいです。

2 引き渡しまでの保管場所

1

直射日光、雨等が
当たらない場所

2

高温多湿に
ならない場所

3

施錠ができ動物や
昆虫が入らない場所

3 その他

食品を提供先団体に引き渡す際に、贈呈式のような場を設けることで、フードドライブ実施主体の活動の成果をPRできるだけでなく、食品の寄付者に対しても自らが寄付した食品が有効活用されているという実感を持ってもらうことができます。ホームページやSNSなども含め、今後、フードドライブの取り組みがさらに広がるよう、積極的に発信していきましょう。



いしかわフードバンク・ネットでの贈呈式
提供：いしかわフードバンク・ネット

フードドライブは食品ロス削減に有効だけではなく、食べ物を必要としている方達の支援にもつながる取り組みです。フードドライブの取り組みの輪を広げ、余ってしまった食品を身近な場所で提供できるようにすることで、気軽に社会貢献できる環境を作っていきましょう。

フードドライブで
気軽に社会貢献をしよう！



いしかわ環境情報サイト

石川県の環境に関する取り組みやイベント情報などを発信しています。



▶ 掲載内容

県内のフードドライブ実施情報

フードドライブ実施マニュアル

▶ 詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください。

いしかわ環境情報サイト フードドライブ  検索



ご家庭で
余っている食品は
ありませんか？



お問い合わせ

石川県生活環境部資源循環推進課
〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

TEL 076-225-1849 FAX 076-225-1473
E-mail jyunkan@pref.ishikawa.lg.jp

令和4年9月発行